音楽

音楽は生きる喜び～全国の仲間との学び

森谷直美

八月六日・七日、東京民研音楽部会と民間教育団体の「音楽教育の会」との共催で、エデュカス東京を会場にして、三年ぶりに全国大会をオンラインで開催することができました。

音楽は録音や録画でも楽しめるけど、やはり生演奏がいい、大会で全国から集まって歌ったり、ピアノに合わせて動くリズム表現をしたりすることは、さすがにままならない、ということで、昨年も一昨年も全国大会は開催できませんでした。でも、昨年夏の全教〈教育のつどい〉音楽教育分科会で、ずっと聴くことのできなかった遠くの子どもたちの実践録音を聴いたことや、学校で、慣れないオンライン授業をやることになり、四苦八苦しながらも、画面の向こうの子どもたちと音楽を共有する喜びを感じたことで、オンラインで全国大会を開催してみようということになりました。

エデュカス東京を配信会場として、全国三十のサブ会場と個人参加者をズームで繋ぎました。合わせて、七百八十一人の参加がありました。東京会場のピアノで歌うのはいつもの研究会と同じ、きっとスクリーンの向こうも歌っていると信じて、ピアノを弾き、歌いました。サブ会場のピアノで歌う場面は、各地からピアノの音が届き、歌った時に「ああ、今まさに音楽の喜びを共有している」と感じる瞬間でした。

大会共同研究者、ピアニストの志村泉さん、作曲家・ピアニストの寺嶋陸也さんのピアノ演奏を聴き、歌いました。いつもは舞台の上で見ることができない手元や指使い、表情まで見えて嬉しいという感想があり、オンラインならではの良さでした。

保育や授業の実践を聴くことは、従来も録音を事前に全国から集めて確認していたので、それを編集してオンラインで流すことで対応できました。コロナ禍にあっても、全国各地の明るく元気な子どもたちの歌声を三年ぶりに聴くことができて、参加者は大いに励まされました。

リズム表現ができなかった、話し合いはあまり深められなかった等の課題はあり、大きな体育館に集まって、今までのような大会ができたら！とは思うけれど、「できることをやってみよう」とチャレンジしたことは大きな一歩になったと思います。

最後の志村泉さんの言葉に、全国から多くの共感が寄せられました。

「一歩前に踏み出すと、違う景色が見えると思う。楽しいことを生み出すためには、知恵と力をふりしぼることができる。子どもたちからエネルギーをもらい、大人が前向きでいること、そのこと自体がまた子どもにプラスになる」。

（共同研究者）